



村上鬼城賞を受賞した
原田 要三さん(70)
大利根町二丁目

体感したことと自分の言葉で

第十八回村上鬼城賞「正賞」に選ばれ、先月十八日に高崎市文化会館で開かれた全国俳句大会で表彰された。

「受賞を知らせる速達が届いたときには何度も読み返し、言葉には表せないほど感激しました。上手でも、立派でもないわたしの句が選ばれていいのかなあと、いまだに思っています」

受賞作は三十の俳句から成り表題は「火焰土器」。本市の埋蔵文化財発掘調査団の一員として六年間従事していたときの句が八つ含まれている。



「昨年の秋まで、毎日、赤城山のふもとで風を肌を受けながら作業していました。このときの体験がヒントになって、俳句

が生まれることも多いです。物まねではなく、自分の体感したことを自分の言葉で表現することを心掛けています」

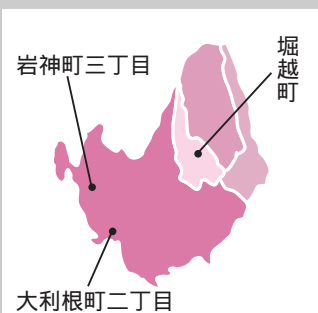
俳句との出会いは八年前。転勤のため静岡県浜松市で働いていたところに、職場の人の勧めで始めた。その後本市に戻り、やるからには基本から学ぼうと俳句教室に参加。現在も指導を受けている。

「まだまだ未熟なので、ますます研さんを積まなくてはなりません。先生に教えていただいた『観る。感じる。表現する』という三原則をこれからも徹底させ、俳句作りに励んでいきます。観念的な句にならないように、外へ出掛けることも大切だと思っています」

俳句仲間と吟行したり、水彩画を描いている妻と小旅行したり、努力を続ける毎日だ。

ふれあい広場

情報をお寄せください。市役所市政発信課 890-6642へ。



敬老会で地域の和

本庁管内

九月十九日は「敬老の日」。岩神町三丁目では、公民館で敬老会を実施。三十六年前から行われている恒例の行事です。

今年も、例年以上に七十人のお年寄りが参加し、会場はにぎやか。子どもたちの合唱や踊りなどが披露され、お年寄りは笑顔でいっぱい。同窓会のように近況を語り合うなどして、楽し



いひとときを過ごしていました。高畑慶春自治会長は「皆さんは、長い間この地域のためにご尽力いただいた先輩で、感謝の気持ちでいっぱいです」と話していました。

まちなりのニュース

子どもの楽しみ 薬師様の夜店

大胡地区



九月四日、堀越町堀下の五十山薬師如来で祭典が開かれました。これは、町の繁栄を見守り続けてきた薬師様を祭り、町民の無病息災を祈願する行事です。夕方には焼き鳥や焼きとうもろこしなどの夜店も出て、おいしそうにほおぼる家族連れの姿があちらこちらに。また、金魚すくいやビンゴゲームもあり、子どもたちは大喜びです。

大矢嘉一自治会長は、「子どものころの楽しい記憶はいつまでも心に残るもの。この祭りを思い出にして心豊かに育ってほしいですね」と話していました。